

立命館宇治中学校・高等学校（2022年度当初バージョン）

2022年5月31日

酒井淳平、熊谷向祐、水口貴之、高野阿草

<はじめに>

このフィロソフィは、立命館宇治中学校・高等学校が今後末永く発展し続けるために、「立命館宇治の教育や立命館宇治の教育に関わる人たちがどうあるべきか」という根本的な問いに真正面から向かい合い作成されたものです。

フィロソフィには我々立命館宇治の教職員全員が、教育活動にあたる上で意識すべきことがまとめられています。まとめることが目的ではなく、全教員が共有し、教育活動の指針として常に活用することに意義があります。困難にぶち当たり決断を迫られたときや、長期的な方針を策定する際に、その判断の根拠にすべきものがこのフィロソフィであると考えます。またフィロソフィの具体的指針については、それに沿った教職員の行動を共有するなど、行動レベルで具体化することも必要だと考えます。

<忘れてはいけない原点・宇治のDNA>

本校は約1500年以上歴史のある街宇治市に、1965年全日制家庭科（女子）として開校した。当時は希望すれば入学できる学校でしたが、課外活動を中心に社会で一人前の生徒を育てるために、熱意溢れる先生方が生徒の育成に力を注ぎました。その想いは、教科活動や国際教育にまで伝染していきます。

その後1994年に立命館と合併し、思いはより具体的な形になり、今に至っています。全員が目の中の生徒に自らの力をありったけ注ぎ、日本だけでなく世界でも通用する一流の人間を育成することに覚悟を持っています。常に挑戦的で、柔軟に新しいことに取り組み、学びながら先頭を走り続け、自らがよりよい社会を創る主体となっていきます。こうしたことが宇治のDNAであり、忘れてはいけない本校の原点です。

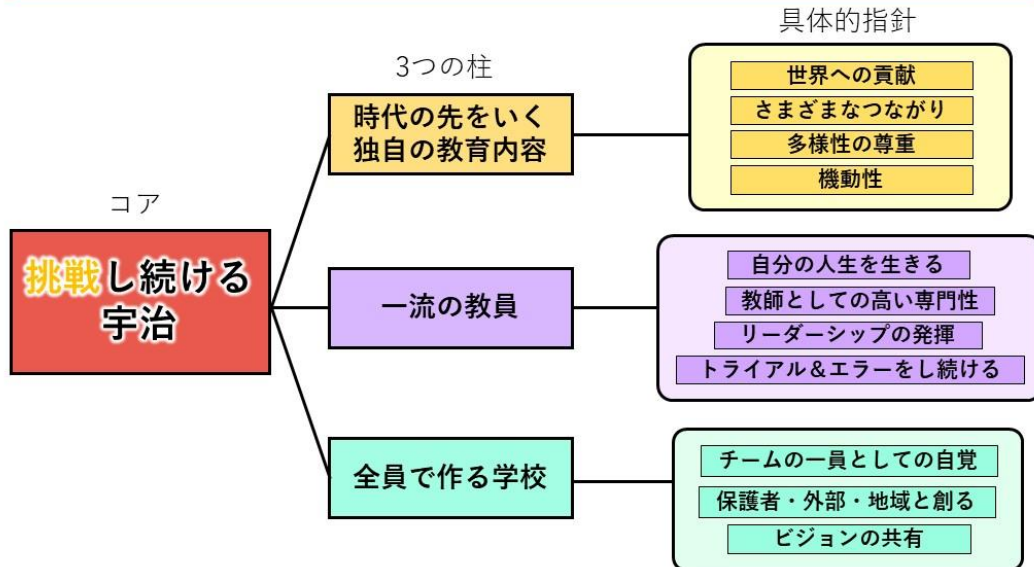
<私学であること>

私たちは私学です。私学は志をもち教育に賛同する人々が集まる学校で、学費をいただくことで存続可能になります。私たちの学校は、府内最高学費をいただいています。私たちは学費にこめられた期待を常に意識し、付加価値を高めていく必要があります。全ての教員は、1人1人がオーナーシップを持ち、財務諸表を読み解き、生徒や保護者の声を聞きながらこの学校の財政にも責任を負う存在でなくてはなりません。私たちは公明正大に教育を行い、私学らしく小回りの利く発想と組織で教育を作ると同時に、持続可能な経営を実行し、よりよい教育を作るという点でも社会に貢献します。

立命館宇治フィロソフィ

～宇治で働く教職員が大切にしているフィロソフィ～

目的：本校を深く理解し、社会人として責任を持ち、輝きながら働けるような指針となること



<3つの柱と具体的指針についての補足説明>

私たちの学校は挑戦し続ける学校です。時代の先を行く教育に挑戦し、教員も一流を目指し、全員で学校を創ります。また私たちの学校は日本の教育創りの一端を担う使命を持っているということを自覚して日々の教育活動を行います。

時代の先を行く教育内容の具体例として、以下の4つがあります。

- ①世界への貢献：私たちは日本だけでなく世界でも通用する一流の生徒育成を目標とし、学校関係者全員が覚悟を持ち、常に挑戦的で柔軟に新しいことに取り組みます。
- ②さまざまなつながり：私たちは心の通じあえる、信頼できる仲間づくりを目指し、家族のような関係として仕事をしています。学校関係者は明確な目的に向かって行動を共にし、自らの夢を実現していく同志の関係を築いています。多様な繋がり、教科間の横断だけではなく、分掌連携、学年間の繋がり、保護者会連携、学外連携企業などの繋がりも含め、広域に多様で多角的な繋がりから、教育を発展させる必要があります。
- ③多様性の尊重：私たちは教育活動を進めるにあたり、個人を尊重し、多様で柔軟な発想を大切にします。多様性を理解し尊重することは個人を尊重する事につながります。
- ④機動性：文科省や他校にはできない最先端の教育を、私学ならではのスピード感を持って機動性のある発想と組織で実行する必要があります。私学が挑戦し続けることで、日本全体の教育のレベルアップに繋がることを期待しています。

私たちは一流の教員として以下のような教員であり続けます。

- ①自分の人生を生きる：1人の人間として、学校外でも充実した自分の人生を送ることが人としての魅力を磨き、周囲の人を惹きつけることにつながります
- ②教師としての高い専門性：教科の専門性だけでなく、教育者としての専門性を磨くことで、生徒の可能性を引き出すことができる教員を目指します
- ③リーダーシップの発揮：長期的な視点を持ち、職務遂行の能力とともに、人間として尊敬、信頼され、みんなのために自分の力を発揮できるリーダーを目指します
- ④トライアル&エラーをし続ける：変化を恐れずに、失敗と挑戦を繰り返す勇気を持ち、実践を繰り返します。このことで、誰もが失敗を経験に変えられる環境を生み続けることができます。

全員で創る学校として以下のように学校を創っていきます。

- ①チームの一員としての自覚：よりよい教育は自分たちで創っていくものです。他人事ではなく自分事として考え、自らが主体となってより良い教育を創ります。
- ②保護者、外部、地域の方と創る：保護者の方、学校外の方、地域の方のお力を借りることで、教育の可能性が広がります。私たちは学校外の方と共に学校を創ります。
- ③ビジョンの共有：全員の力が同じ方向に結集したとき、何倍もの力となり、驚くような成果をうみ出します。私たちは目標を共有して学校を創ります。

<終わりに>

このフィロソフィは、2021年度に当時の中堅教員4名が中心となって作成されました。「挑戦し続ける」という核の部分は、今後普遍的に守り続けていかなければなりません。しかし、挑戦し続ける学校であるために大切にすべき具体的な項目については、様々な教員の考えが加わり、時代に合わせて常に改善が加えられるべきものであると考えます。立命館宇治の教育がどうあるべきかという根本の問いに向き合い、それまでの歴史を鑑み、多くの教員間で議論を重ねながら、このフィロソフィがより良いものに育っていくことを期待します。